

# — 南山大学 —

2月7日 全学統一 英語

## 解答

### A I

- |         |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 1. (D)  | 2. (B)  | 3. (C)  | 4. (C)  | 5. (D)  |
| 6. (A)  | 7. (C)  | 8. (D)  | 9. (A)  | 10. (B) |
| 11. (A) | 12. (B) | 13. (A) | 14. (A) | 15. (D) |
| 16. (C) | 17. (B) | 18. (B) | 19. (B) | 20. (A) |

### A II

- |         |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 21. (C) | 22. (D) | 23. (A) | 24. (B) | 25. (C) |
| 26. (D) | 27. (D) | 28. (B) | 29. (D) |         |

### A III

- |         |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 30. (C) | 31. (B) | 32. (D) | 33. (A) | 34. (A) |
| 35. (A) | 36. (D) | 37. (C) | 38. (B) | 39. (A) |
| 40. (D) | 41. (B) | 42. (D) | 43. (A) |         |

### A IV

- |         |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 44. (B) | 45. (A) | 46. (D) | 47. (B) | 48. (B) |
| 49. (A) | 50. (C) | 51. (D) | 52. (B) | 53. (C) |
| 54. (B) |         |         |         |         |

### A V

- |         |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 55. (C) | 56. (C) | 57. (B) | 58. (C) | 59. (D) |
|---------|---------|---------|---------|---------|

### A VI

- |         |         |         |         |         |
|---------|---------|---------|---------|---------|
| 60. (D) | 61. (D) | 62. (A) | 63. (A) | 64. (D) |
| 65. (C) | 66. (C) | 67. (B) |         |         |

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

[増田塾 2019 解答速報ホームページ](#)

早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！

**解説**

A I

1. **not** と **any** の組み合わせである。また **I don't have any idea** で「全く分からない」といった意味になる。
2. 選択肢から関係詞の問題であることがわかる。空所の後ろの関係詞節(～exam まで)に注目すると、所有格がない不完全文であることがわかるので、選択肢 B の **whose** を入れる。
3. **make sure** の後ろに名詞節を作る **that** が省略されていることに気付けたらどうか。**before** から始まる副詞節の中であること、主語と動詞 **separate** の関係は受動であることに注意して、選択肢 C を選ぶ。
4. 「初めて友人のブライアンに会った時のことを決して忘れない」という意味で、「(過去に)～したことを忘れる」は **forget Ving** であり、**forget to V** は「(これから)～することを忘れる」という意味である。選択肢 C が正解である。
5. **I'm worried** の後ろに、やはり名詞節を作る **that** が省略されている。名詞節の中では未来のことは未来形で表せばよいので選択肢 D が正解である。
6. 仮定法の倒置であることに気付けたらどうか。**if you should prefer** ～ の **if** が省略され、**should you prefer** ～ となったもので、意味的にも通じるのは選択肢 A のみである。
7. 「電話をかけているときにスマートフォンが壊れた」と、**while** 以下は過去進行形にするのが適当であるので、選択肢 C が正解である。
8. 空所の後ろが文になっていることに注意しよう。つまり、前置詞である **during** は入らないということである。**soon** も副詞で文と文を繋げないので不可。あとは意味的に考えて「ちょうど～のとき」となる選択肢 D が正解である。
9. 主節の動詞 **suggested** に注目すると、「提案する」といった意味では、以下の **that** 節の中の動詞が V 原形か **should + V 原形** になる仮定法現在を導くものである。よって選択肢 A が正解である。
10. 主節の動詞 **apologized** の語法を覚えているだろうか。**apologize to 人 for 理由** などと使うものである。空所の後ろには「ピアノの先生」と、人が来ているので選択肢 B が正解である。
11. 「3位に入ったことで賞が与えられた」といった意味で、正解は選択肢 A である。
12. 人を主語にして「～したがっていた」といった意味になるのは選択肢 B である。
13. 選択肢 A の **congratulate** が正解であるが、**congratulate 人 on** ～と、人を必ず目的語に取る動詞であることを覚えておこう。正誤問題で問われることもある。
14. 問題文全体の意味から選択肢 A の「延期する」を入れるのが適当である。
15. 空所の後ろを見て、空所には自動詞が入ることと問題文の意味を考えて、選択肢 D が正解である。
16. 「見分けがつかなかった」といった意味で、**mistake A for B** 「A を B と見間違える」という意味になる選択肢 C が正解である。
17. 熟語の問題で、選択肢 B を入れると「拒否する、拒絶する」といった意味になる。
18. 選択肢 C の **spend** も語法的には入りうるが、意味的に「せまくて急なところがあったので山登りをして時間を過ごした」といった意味になってしまい不自然である。ここは選択肢 B を入れて「時間をかけて(慎重に)登らなければならなかった」とするのが適当である。

19. 「that 節以下だということを確認していた」という意味になる選択肢 B が適当である。
20. 「けがが治る」と、「けが」などが主語に来ることができるのは選択肢 A である。

## A II

21. 第 1 段落 4 文目および第 2 段落の内容から選択肢 C が正解である。
22. 第 3 段落、特に 3 文目の内容から選択肢 D が正解である。
23. 第 3 段落 2 文目の内容から選択肢 A が正解である。
24. 第 4 段落 5 文目の内容から選択肢 B が正解である。
25. 第 5 段落 2 文目の内容から選択肢 C が正解であるが、文中の find one の one が指すものは前文の a publisher であることを読み取る必要があるという意味で、少し難しいかもしれない。
26. 第 6 段落 3 文目で「アルファベット順には並べられていない」という記述があることから、本文に述べられていないのは選択肢 D である。
27. 第 7 段落 3 文目の内容から選択肢 D が正解である。
28. 難しい表現ではあるが、eyesight began to fail him で「彼の視力が衰え始めた」と言った意味になる選択肢 B が正解である。
29. 挿入する文は「これまでに生み出された絵本で最も偉大なものとみなされている」といった意味だが、これが入りうるのは選択肢 D である。

## A V

55. exist は「存在している」という意味の状態動詞であり、原則、進行形にはしないものの 1 つである。選択肢 C の has been existing を has existed とすべきところ。
56. 選択肢 C のところで was designed ～ と was があるが、そうすると、接続詞がないにもかかわらず、文が 2 つ並ぶことに気付けたらどうか。was をとって後ろから前の名詞を修飾する過去分詞の形にするのが正しい。
57. 細かい問題であるが、「短期間の滞在でも」というときには for a short stay と冠詞の a が必要などころで選択肢 B が正解である。こういった問題は、消去法で解く方が賢明かもしれない。
58. 選択肢 C のところに in responding ～ とあるが、「ウェブサイト上に掲載された苦情に対して」という意味にするためには in response to ～ などとすべきである。
59. 主節の動詞 promised が過去形であることに注意すると、provided 以下の副詞節の中も時制の一致で過去形であるべきなので、選択肢 D を would have とすべきところである。選択肢 C の provided はここでは動詞ではなく provided S V 「SV だとすれば」という条件を表す接続詞として用いられている。

その他の大学・学部の解答解説はコチラ！

増田塾 2019 解答速報ホームページ

早慶上智・GMARCH・関関同立などをはじめとした難関大学の解答解説を随時公開していきます！